新潮文庫

一握の砂・悲しき玩具

石川啄木歌集

金田一京助編

新潮社

一握の砂・悲しき玩具

—石川啄木歌集—

新潮文庫　　い-10-3

昭和二十七年五月十五日　発行
平成四年十二月十日　七十六刷改版
平成七年四月十日　八十刷

編者　金田一京助
発行者　佐藤亮一
発行所　株式会社　新潮社
郵便番号　一六二
東京都新宿区矢来町七一
電話　編集部(〇三)三二六六—五四四〇
読者係(〇三)三二六六—五一一一
振替　〇〇一四〇—五—八〇八
価格はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社読者係宛ご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

印刷・株式会社三秀舎　製本・有限会社加藤新栄社
Printed in Japan

ISBN4-10-109303-2 C0192

新潮文庫

一握の砂・悲しき玩具

—石川啄木歌集—

金田一京助編

新潮社版

334

目次

一握の砂……七
悲しき玩具……一五七
拾遺……二一一
解説……金田一京助　三九
啄木と歌……山本健吉　二四五
年譜……二六八

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

一握の砂・悲しき玩具

一握の砂

（序）

世の中には途法も無い仁もあるものぢや、歌集の序を書けとある、人もあらうに此の俺に新派の歌集の序を書けとぢや。ああでも無い、かうでも無い、とひねつた末が此んなことに立至るのぢやらう。此の途法も無い処が即ち新の新たる極意かも知れん。

定めしひねくれた歌を詠んであるぢやらうと思ひながら手当り次第に繰り展げた処が、

高きより飛び下りるごとき心もて
この一生を
終るすべなきか

此ア面白い、ふン此の刹那の心を常住に持することが出来たら、至極ぢや。面白い処に気が着いたものぢや、面白く言ひまはしたものぢや。

非凡なる人のごとくにふるまへる
後のさびしさは
何にかたぐへむ

いや斯ういふ事は俺等の半生にしこたま有つた。此のさびしさを一生覚えずに過す人が、所謂当節の成功家ぢや。

何処やらに沢山の人が争ひて
鬮引くごとし
われも引きたし

何にしろ大混雑のおしあひへしあひで、鬮引の場に入るだけでも一難儀ぢやのに、やつとの思ひに引いたところで大概は空鬮ぢや。

何がなしにさびしくなれば
出てあるく男となりて
三月にもなれり

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

とある日に
酒をのみたくてならぬごとく
今日われ切に金を欲りせり

怒る時
かならずひとつ鉢を割り
九百九十九割りて死なまし

腕拱みて
このごろ思ふ
大いなる敵目の前に躍り出でよと

目の前の菓子皿などを
かりかりと噛みてみたくなりぬ
もどかしきかな

鏡とり
能ふかぎりのさまざまの顔をしてみぬ
泣き飽きし時

こころよく
我にはたらく仕事あれ
それを仕遂げて死なむと思ふ

よごれたる足袋穿く時の
気味わるき思ひに似たる
思出もあり

さうぢや、そんなことがある、斯ういふ様な想ひは、俺にもある。二三十年もかけはなれた此の著者と此の読者との間にすら共通の感ぢやから、定めし総ての人にもあるのぢやらう。然る処俺等聞及んだ昔から今までの歌に、斯んな事をすなほに、ずばりと、大胆に率直に詠んだ歌といふものは一向に之れ無い。一寸開けて見てこれぢや、もつと面白い歌が此の集中に満ちて居るに違ひない。そもそも、歌は人の心を種として言葉の手品を使ふものとのみ合

点(てん)して居た拙者は、斯ういふ種も仕掛も無い誰(だれ)にも承知の出来る歌も亦(また)当節新発明に為(な)つて居たかと、くれぐれも感心仕(つかまつ)る。新派といふものを途法もないものと感ちがひ致居(いたしを)りたる段、全く拙者のひねくれより起りたることと懺悔(ざんげ)に及(さうらふなり)び候也。

犬の年の大水後

藪野(やぶの)椋十(むくじふ)

函館なる郁雨宮崎大四郎君
同国の友文学士花明金田一京助君

この集を両君に捧ぐ。予はすでに予のすべてを両君の前に示しつくしたるものの如し。従つて両君はここに歌はれたる歌の一一につきて最も多く知るの人なるを信ずればなり。
また一本をとりて亡児真一に手向く。この集の稿本を書肆の手に渡したるは汝の生れたる朝なりき。この集の稿料は汝の薬餌となりたり。
而してこの集の見本刷を予の閲したるは汝の火葬の夜なりき。

著　者

明治四十一年夏以後の作一千余首中より五百五十一首を抜きてこの集に収む。集中五章、感興の来由するところ相邇(あひちか)きをたづねて仮にわかてるのみ。「秋風のこころよさに」は明治四十一年秋の紀念なり。

目　次

我を愛する歌　一六
煙　五四
秋風のこころよさに　八〇
忘れがたき人人　九三
手套を脱ぐ時　一三七

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com